

## 西向きの窓

孤独に足音はない

自分の足音の訝すら帰っては来ない

萌黄色の地平が西日の余命に照らされ

最大限の慰めを送つて来る

人を部屋に例えるなら

良き人は良き扉と良き窓

緑の地平は何も約束はしてくれない

でも次の地平の幻覚を僕にくれる

温かい部屋がいつも僕を待っていて

僕も優しい部屋に帰って来る

茜色をバックに

雲雀が消えてしまったり

鳩が求愛してきたりする

暗くなった網膜に

灯をつける

カーテンを少しあけて外を見る

天使が僕の愛する色彩を踏みにじつてしまうこと  
もある

奴の、いや神つて奴のわがままなんだ

日常の粉々になった光が

闇を彩っている

じつと身を竦めて

罪深い自分と

傲慢な自分の夢を

恐ろしい陰謀のように心に固めたい

老いというものを

ス。ハイしながら生きて行こう